

# 甲虫コレクションガイド 13

## 豊田ホテルの里ミュージアムの甲虫コレクション

川野敬介

〒750-0441 山口県下関市豊田町大字中村 50-3 豊田ホテルの里ミュージアム

Beetle Collection of the Firefly Museum of Toyota Town

Keisuke KAWANO

### 昆虫類の収蔵標本の概要

豊田ホテルの里ミュージアム（主管：下関市教育委員会，図1）は2004年6月5日に開館し，開館時は昆虫類の収蔵標本は皆無であった。2008年に安田正利氏，2009年に白水（武次）房江氏，2011～2012年に松永善明氏から多くの昆虫標本（乾燥標本）が寄贈され，当館の収蔵標本の基礎が構築された。また，山口県西部における国や県が事業者として調査した環境調査標本も寄託され，多岐にわたる分類群の昆虫標本が収蔵され，甲虫類に関しては概ね標本化して管理できている。さらに，最近では当館の研究報告書に投稿頂いた方が報告した標本を寄贈される場合も増えている。

現時点では約6万点の昆虫標本（乾燥）が収蔵

されており，その内の1/4程度については標本データがデータベースに登録されている。なお，安田正利氏と白水（武次）房江氏のコレクションについては概ね登録が完了している。さらに，遺伝子解析用に液浸標本（99%エタノール）も収蔵しており，ホテルについては標本とその個体の映像（発光パターンなど）とともにデータベースに登録されているが，それ以外の甲虫類についてはまだ登録されていない。

### 収蔵庫について

収蔵庫は42.40 m<sup>2</sup>で，1つの棚に最大108個のドイツ箱が収納できる可動式の棚が20列配置されている（図2）。収蔵庫は昆虫標本（乾燥）だけでなく，植物



図1. 豊田ホテルの里ミュージアムの外観。

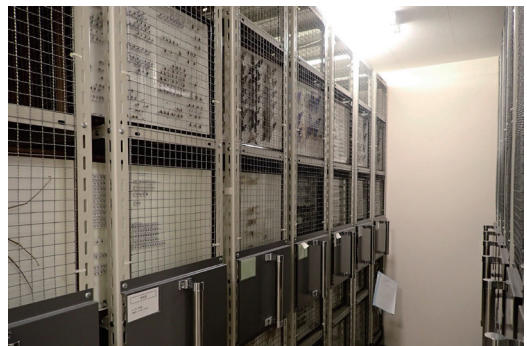


図2. 昆虫標本（乾燥）の収蔵庫の様子。



図3. 液浸標本の収蔵庫の様子。



図4. 昆虫標本寄贈者を紹介した常設展示の様子。

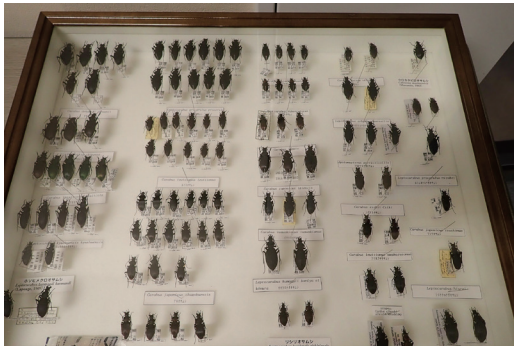


図5. 安田正利コレクションの一部.

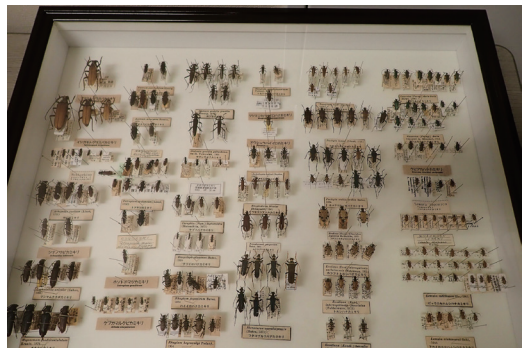


図6. 松永善明コレクションの一部.

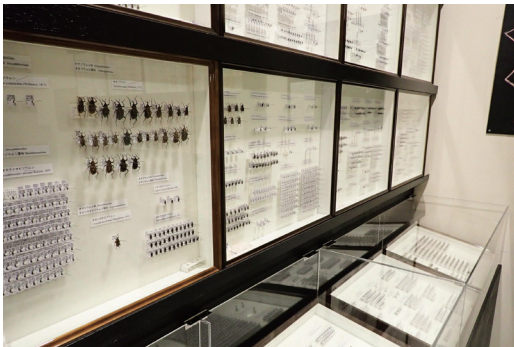


図7. 田中伸一氏が寄贈されたゾウムシ類の展示の様子.



図8. 松田真紀子コレクションの一部.



図9. 国が事業主体で行った環境調査で得られた昆虫標本の一部.



図10. 収蔵標本のぞき窓の展示の様子.

や貝類標本と併用しているが、まだかなりの収納容量がある。近年は、昆虫標本よりも植物や貝類標本の受入数が増加している。液浸標本については化石や岩石などと併用の別の収蔵庫に収蔵している(図3)。

### 寄贈標本の概要

当館の収蔵標本(昆虫類)の礎を築いて頂いた安田正利氏、白水(武次)房江氏、松永善明氏のコレクションについては、寄贈者とその家族への感謝と、来館者へのコレクションの紹介を兼ねて、常設展示室内に寄贈者の紹介とともに標本を展示している(図4)。以下に、それら各寄贈者とその

コレクションの概要を紹介し、さらにそれ以外の収蔵標本についても簡単に紹介する。

### 安田正利コレクション

甲虫類やチョウ類を主体とするコレクションで10,017点からなる。山口県萩市に在住されていることから、同市周辺のハムシやオサムシなどの甲虫類が充実している(図5)、また、カミキリムシ類では日本産の400種以上がコレクションされている。

### 白水(武次)房江コレクション

チョウ類が主体となったコレクションで5,184点



図11. 収蔵標本のぞき窓のカタログ。



図12. 専用のケースに入った状態の標本箱。

からなる。甲虫類についてはペルーで採集されたコガネムシやガムシなどが数個体あるのみである。

### 松永善明コレクション

国内外の甲虫類やチョウ類を主体とするコレクションで17,498点からなる。生前に一部をご本人から直接寄贈を受け、逝去された後にご遺族から残りのすべてが寄贈された。寄贈時はカビや虫食いなどが見られたが、すべての標本の修復やクリーニングは完了し、現在は良好な状態で管理されている(図6)。自身で採集された標本が主体であるが、交換や購入された標本も多数含まれている。さらに、トンボやバッタ、ウスバカゲロウに至るさまざまな分類群の昆虫標本が含まれており、中にはザトウムシやサソリなどの昆虫以外の節足動物の標本もある。

### 田中伸一コレクション

当館の研究報告書に県内の標本記録を投稿されたものを主体に甲虫類やハチ類、ハエ類、カメムシ類の標本を寄贈されている。これまで田中氏が投稿された甲虫類に関する当館研究報告には田中(2014, 2016, 2017a, 2017b, 2018a, 2018b)や田中ほか(2014)がある。寄贈されたゾウムシ標本については一部を常設展示している(図7)。

### その他

ほかにも、田中馨氏の甲虫類やガ類の標本、松田真紀子氏による海浜性の昆虫類の標本(図8)なども収蔵している。松田氏のコレクションについては、松田・川野(2012, 2014a, 2014b)や松田(2016, 2018a, 2018b)が報告されている。また、国や県が事業主体として行った環境調査で得られた標本についても寄託資料として標本化した状態で収蔵している(図9)。

### 収蔵標本のぞき窓

一般の方に収蔵標本を見てもらえる機会を作るために「収蔵標本のぞき窓」という展示を行っている(図10)。これは、カタログ(図11)の中から見たい収蔵標本(ドイツ箱単位)を選んでいただいで、自由に収蔵標本を見ることができるといったものである。標本が取られたり、破損されたりしないように工夫して作られた専用のケースに入った状態ではあるが、自由に収蔵標本を見ることができる(図12)。当館は公共施設という性格上、収蔵標本を専門家の方だけでなく、一般の市民の方でも利用できるように配慮(工夫)している。さらに、多くの方に実物を見ていただきたいという想いも合わさって作った展示である。なお、現時点では収蔵標本の一部のみですべての標本が対象というわけではない。

### 今後の展望について

当館では収蔵スペースにまだ余裕があるため、今後も寄贈標本の受け入れを行っていく予定である。さらに、収蔵標本についてはデータベースに登録されたものから順次当館ホームページ <http://hotaru-museum.jp/exhibition/> に掲載していこうと考えている。収蔵標本を利用されたい方は電話またはメールで直接筆者までご連絡いただきたい。

### 謝辞

これまで当館の活動にご理解いただき標本をご寄贈いただいた方々、そして、今回このような紹介の機会をお与えいただいた奥島雄一博士(倉敷市立自然史博物館)に感謝申し上げます。

### 引用文献

- 松田真紀子・川野敬介, 2012. 下関市三軒屋海岸で採集した甲虫類. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (4): 49-53.  
松田真紀子・川野敬介, 2014a. 下関市のイソジウカイモド

キの生態と分布. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (6): 113-117.

松田真紀子・川野敬介, 2014b. 下関市三軒屋海岸の生物3種. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (6): 131-132.

松田真紀子, 2016. 下関市の海岸で得られたゴミムシダマシ科の記録. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (8): 203-204.

松田真紀子, 2018a. 下関市の海岸性節足動物の分布と生態. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (10): 131-144.

松田真紀子, 2018b. 下関市のセスジダルマガムシ属の一種の生態. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (10): 145-154.

田中伸一, 2014. 山口県産ヒラタムシ上科について. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告, (6): 23-27.

田中伸一, 2016. 山口県初記録または記録の少ない甲虫類.

豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (8): 165-174.

田中伸一, 2017a. 山口県初記録または記録の少ない甲虫類(2). 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (9): 57-62.

田中伸一, 2017b. ビロウドコガネ族の採集記録. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (9): 107-108.

田中伸一, 2018a. 山口県産ゴミムシダマシ科の分布記録. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (10): 85-106.

田中伸一, 2018b. 山口県初記録または記録の少ない甲虫類(3). 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (10): 155-156.

田中伸一・椋木博昭・川野敬介, 2014. 山口県産ゾウムシ上科の分布記録. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (6): 31-103.

(2018年10月17日受領, 2018年12月10日受理)

### 【短報】小笠原から4頭目のオオキノコ

小笠原諸島のオオキノコ亜科の種は1種のみしか知られていない。しかも、かなり珍しいようで、その記録はかなり古く、中根(1977)が報告した3頭の標本が北大に所蔵されている「中根コレクション」にある。最近、4頭目の標本を確認出来たので、ここに報告する。なお、小笠原での採集は許可を得ている。末筆ではあるが、中根コレクションの標本を確認していただいた大原昌宏博士に厚く御礼申し上げる。

和名がないのでヨツモンナガオオキノコを提唱したい。

#### ヨツモンナガオオキノコ (新称)

##### *Neothallis xanthosticta philippinensis* Delkesamp, 1961

lex., 小笠原父島

中山峠, 21. I. 1984, 中村俊彦採集・保管。

中根コレクションのデータは

lex., 父島, 5. VII.

1974, H. Fujita leg.;

lex., 父島, 7. VII.

1976, M. Takakuwa

leg. (Host カイガラ

タケ); lex., 父島,

20. VI. 1976, H. Irie

leg.

黒沢(1976)が

父島から記録した

*Megalodacne* sp. は

本種であるという。

標本は同じもの

と思える。オースト



図1. ヨツモンナガオオキノコ。



図2. 中根コレクション小笠原のオオキノコのラベル。

ラリア, ニューギニア, セレベス, スマトラ, ボルネオ, フィリピンなどに広域に分布し、数種の亜種が知られる (Chûjô & Chûjô, 1988)。ここでは中根に従い subsp. *philippinensis* とするが、その扱いが正しいかは筆者らには分からない。

#### 引用文献

Chûjô, M. & M.-T. Chûjô, 1988. A catalog of the Erotylidae (Insecta, Coleoptera) from the old world (Excl. The Ethiopian region). *Esakia*, (26): 139-185.

黒沢良彦, 1976. 小笠原諸島の甲虫相 - その構成と起源 - 月刊むし, (68): 21-26.

中根猛彦, 1977. 小笠原諸島に分布する一部の甲虫類について (新種記載を含む). 国立科博専報, (10): 147-162.

(平野幸彦 250-0865 小田原市蓮正寺 585-29)

(中村俊彦 104-0045 東京都中央区築地 2-1-12)